

FD研修会 以下のテーマについて、各グループで「ブレインストーミング」を行い、出てきた意見を全て示したものである。

テーマ: 学びやすい環境づくりについて

1) 自分が知っていること、やっていることを出しましょう。

2) 課題と思われることを出しましょう

第1グループの結果

授業の工夫	IT	設備・制度	授業内容課題	工夫
スライドを使用する授業での集中力の維持	ipadを導入してみた 一部であるが良好	講義室の机・いすがあっていない	資格取得のために受ける授業外 多く自由な発想での時間はない	時々学生に質問する
授業の最後に重要な項目についてミニテストを行う	(全員) 各人に制限をかけて利用可とした	授業時間外に自由に学修できるスペースの確保	授業間の有機的関連性をつける	座学で班学習とする
その日の講義の感想を書かせる	スマホを活用した授業	夕食時間まで食堂を開いてほしい	どうやれば授業に興味を持たせられるか(分子模型など)	オリジナル食品開発の設定、個人のアイデアを生かせる工夫ができる
広い実験室で何回かおきに前後の位置を入れかえる	SNSに集中して授業が散漫になる(不明な部分を調べている学生もいて完全制限制限できない)	図書館の休日開館を工夫してほしい	興味のある話題	授業中に公平に氏名する
			アルバイトの悪影響を出さないように改善する	授業中の平穏な環境の維持

第2グループの結果

快適な環境	授業		対外的取り組み	ゼミ
		資料		
静かな環境	開いた質問をするよう気をつけた	学生に興味を持つような資料を用意する(イラスト入り、アニメーション・動画挿入)	活発にALを取り入れている大学のALの様子を見てみたい	ゼミでの実験テクニック的に大変だが、その後に肉を食べて研究を理解してもら
上質ないす	勉強会の際にただ講義するのではなく、暗記の時間を設けたい	学生に質問して答えてもらって、さらにそれに関連する質問をして過去に教えたことを覚えているか確認している(分野を混ぜて)		
図書の活用	実習後に毎回暗記テストをしたところ最後の頁には多数の学生が答えられるようになった	細かい補足資料、見やすい色・大きさ(PP)		
クリッカー、ipad、ITガジェット、wifi、図書	レポートの書き方など、根本的なところから教える必要がある。調べるサイトなど曖昧なところがある	授業の中で出てくる日頃知らない食材を見つけたら、買ってきて実際に手にとって見てもらう		
	調理実習の際に、酷使勉強も含めて、実習室にアルコール数値や加熱温度を書いていつでも記憶できるようにした			
	定期試験対策(勉強の目的が絞れない) 国家試験対策(勉強していないところが出る)			
	録音			
	班の場所入れ替え			

第3グループの結果

全体	モチベーション	時間	予算
大成功した先輩の姿を見せる	授業内容に興味がない学生を授業のほうに目を向かせる	教員の研究する時間を確保する	余った予算を次年度にそっくり回せるようにする
資格を取らせる	学生の理解度に差がある場合に基準をどこに持っていか？(よく理解できている学生は？)	書類作成を不要もしくは最小限にする	予算を今より多めにする
学びやすいことがわからない		会議を減らす	参考書・テキストを準備させる
一生懸命教えたが、寝ている、電気を消している			机といすの質の向上
授業の終わりに練習問題をさせる			
参考書(引用文献)を紹介している			
身近な出来事(経験談など)も授業のなかで話す			
現物(サンプル)を準備して回覧する工夫をしている			
教員に質問しやすい環境であること			
授業の最後にその日教えた内容のポイントをとうための小テストを行っている			
わかりやすい言葉で伝える努力をしている(専門的になり過ぎないように)			
長時間部屋で過ごせること			
教員の増員			
本がたくさんあること			
静かであること(集中しやすい)			
無料wifiがあること(検索自由)			
エアコンが効いて年中快適であること			
すわり心地の良いいすがあること			
疲れたら一休みできる環境があること			

第4グループの結果

授業の工夫	グループワークの課題	グループワークのよさ	ALの課題	やる気・意欲
現場の許可を取って現場の事例を紹介する	グループワークを行うと、他のヒトと関われない学生が出てくること	学生がお互いにコミュニケーションするときはグループ学習が良い	アクティブラーニングをするとき評価をどうするか	やる気がない
過去の良い見本を提示して、グループワークに取り組みやすくする	学生が取り組みやすいペアワーク、グループワークの工夫を知りたい	学生同士が影響し合える環境	アクティブラーニングと教えることが多くあることとの葛藤	そもそも学習のやり方学び方がわかっていなし、できていない
反転授業、家庭での準備に時間をかける	学生が多いときでも早くできるグループワーク	時間をかけて準備をしてグループで発表する	障害のある学生が参加しやすいALの方法を知りたい	やる気がおきる仕組みや仕掛けがある環境
すべての授業にペアワークの時間がほしい	学生数が多いことに対して、グループ学習ができる教室が少ないこと		学生が多い教室で「わからない、教えてください」と訴える雰囲気、一番補講が必要な学生に声をかけてもらえないかも	
英検を取れるようにリメディアルの授業ができた				学生の問題
ベストなタイミングで教員がフォローできる環境				金銭的に余裕があること

第5グループの結果

学生間の学びあい	意欲の向上	基礎学力up
学生同士が互いに教えあってほしい	前の席に座らない学生が多いので考えたい	簡単なことしか教えない
中間テストで学生同士に採点させた	受講生が多いので学生の配置を考えたい	基礎学力不足
学生(友達間)で試験対策、生活対策	どうすれば学生が質問するようになるか	わかりやすく丁寧に説明
	復習しているのだろうか？	授業時間を20%オフにして後は質問の時間
	その日のテーマを話してから進める	

第6グループの結果

環境づくり	リラックスした雰囲気	丁寧な指導	楽しさ・興味
余計な刺激の入らない、入りにくい空間配置	自由に意見を言える場	研究の方法について、個々の学生に応じて繰り返し伝える	興味を持つことができるように具体例を入れる
授業の目的・プロセス・達成目的をはっきりさせて、学生にこう努力すれば目標達成可能かをわからせている	一般的な講義にならないために、個人や他者とのワークを入れる	学生と個別で話す時間を作る	自己肯定感の持てる、自信につながる授業の展開
文型・理系の学生のためにALをどう取り組めばよいか知りたい	お互いの緊張感を取り払う方法		まず、大学に通いたいと思わせる授業、研究室に出務したいと思わせるために楽しさを感じさせて、次に勉強に取り組んでもらう
	学生間の心の距離を縮める(アイスブレイク等の導入)		

第7グループの結果

授業への参加	学生への配慮	図書館	地域資源
学生が発言しやすい環境づくり	問題を提示してから説明に入る	図書館の利用時間を長くする	地域資源を生かす方法を考える
学生が答えやすいような質問の仕方、当て方	毎回の授業終了時に自身の学びについて記録する→質問が出やすい	図書館の蔵書を増やす	
スマホ→文献探し	課題について事前に学生に理解しやすい表現で事例を交えながら提示した	図書室をもっと利用させたい	
私語と他の学生への迷惑行為、モチベーションを下げるような言動をとる学生への対処方法を知りたい	学生が知っていること(具体的な事例)と結びつけて話をする		
	学生が研究室を訪問しやすい雰囲気を作る		

第8グループの結果

授業の工夫	AL	主体性	ハード面
受講生の多い授業で質問が出にくいので改善していきたい	AL効果が得られるまでの適正な教授方法	研究室で主体性のない学生が多いので改善していきたい	図書館に独立した学習スペースがある(他大学)
学生からの積極的な発表質問を増やす	AL手法について	学生の幅が広い、同系の他の私立大の状況(国公立大はおおむね学力が同じ)	大学図書館を学生の居場所とする(海外の事例)
講義中にだいたい15分おきに学生への質問を適宜入れていく		卒業に向けた目標がある	学生の自習スペースを広く取る(専用)
授業の復習もかねた小テストは試験の対策にもなっているのではないか			コピーなどは低料金で
学部横断的に単位互換性を充実させる			
ヒト・緑・食に対する姿勢を持つ学生を育てる			